

会いたかった

南区支部 角田 フミ子（妻）

戦没者 角田 善治

戦没地 フイリピン

私は二十二歳、夫は二十歳で結婚して横浜で新婚生活を始めました。父と母も一緒の生活でした。子供も生まれ一番幸せなとき、一年半くらい経ったときに赤紙が来て横須賀の海軍に連れで行かれました。その時生後二ヶ月の我が子の写真を胸にしっかりと抱いて出征して行きました。家族も私も泣きました。夫は辛くて何も言えませんでした。海軍に行ってから夫が手紙や品物を送ってくれたそうですが、一度も届きませんでした。あとからそれが判りました。

面会に行きたかったのですが、軍の方から言われないと面会が出来ませんでした。

夫が行ってから三ヶ月経った頃、田舎がある人は強制疎開をさせられました。私達の疎開先は夫の実家がある島根県です。実家をお願いをして暫くお世話になっていましたが、いつまでも世話になっていられませんので、知人が紹介してくれた鳥取の渡村という所に家族で行くことになりました。

渡村に行きましたが、食べ物がなく困って、母親が物々交換をして食べ物を確保して生活して

いました。母親も皆んなの為に頑張ってくれました。私は母親が出ていたので家の仕事を全部していました。水が家の中にないので、井戸まで何回も汲みに行き大変でした。

その内に戦争が激しくなり、飛行機が何機も飛んで爆弾を落とされ、防空壕に逃げ、毎日が死ぬ思いでした。

広島に原爆が落ちた時、軍の方からこれが最後になるので面会に来てくださいと言われましたが、戦争が激しくて、父母と私は会いに行きたいけれど、小さい子供を連れてとても行ける状態ではありませんでした。私はどんなことをしても会いに行きたいと言ったのですが、皆なに引き止められました。途中で爆弾に当たって死ぬかも知れないし、そこまで辿りつけるか分からないからです。会いに行けないのがどんなに辛かったか、胸が張り裂けんばかりに泣くばかりでした。夫は私と子供、父母に会うのを待っていたかと思うと、今も話しをするたび涙が出ます。

夫は駆逐艦『樫』に乗っていました。信号兵だったそうです。陸軍の人が後で教えてくださったのですが、五十賢先に陸が見えていたその目前で沈んだとの事でした。

戦争のために私も精神的な病気をしまして、長いこと何も出来ませんでした。何年もかかって少しずつ良くなって家の事も出来るようになりました。

今は家族と仲良く生活をしています。

戦争は絶対してはいけません。させてはいけなさと強く思います。